

アルツハイマーという病気は、家族とゆつくりしたお別れ、つまり、スローグッバイ。

4度のがん手術から生還した夫がアルツハイマーの妻に贈る、三十一文字のラブレター。

萩金谷天満宮宮司 陽信孝さん

8月28日に、八千代文化施設フオルテにて、人権講演会「八重子のハミンググー老老介護四〇〇〇日の軌跡」を開催しました。

講師には、萩金谷天満宮宮司でもあられる陽信孝さんをお招きしました。

信孝さんの妻八重子さんはアルツハイマーを患い、65歳でその生涯を閉じられました。

夫の信孝さんは自らも4度の癌手術を克服され、アルツハイマーになった妻の介護を、家族とともに萩市の自宅で12年間続けてこられたのです。

アルツハイマーの原因はわからないケースがほとんどですが、八重子さんの場合、夫の信孝さんが医者から癌を宣告された時のショックで脳が急激に委縮したためではないかと考えられています。

信孝さんが12年間の妻の介護記録を綴った『八重子のハミンググー』が全国出版され、今も全国各地の読者から手紙が届き、大きな反響を呼んで、映画として上映されています。

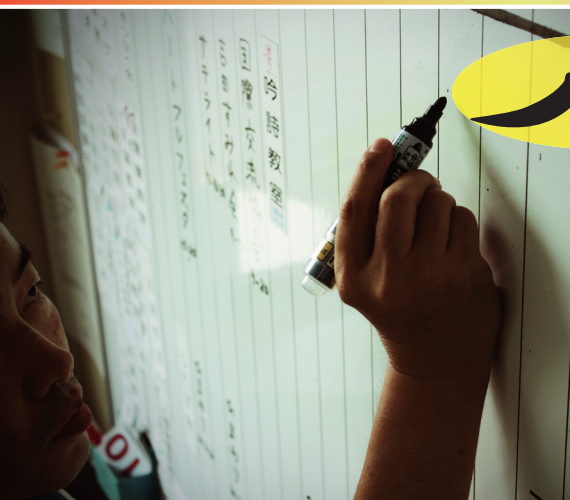
信孝さんはこの本の中で八重子さんとの暮らしで感じた思いをその都度、三十一文字の短歌にしたためておられました。

同じこと 繰り返し問う
妻の日々
繰り返し問う
われの日々

時が経つにつれ病気は進行し、記憶は徐々に消滅していきましたが、かろうじて夫である信孝さんのことはわかっていました。また元音楽教師だった八重子さんは歌が大好きで歌詞は出てこないものの、信孝さんのハーモニカに合わせメロディを口ずさんでいました。八重子さんが笑顔を見せる数少ない瞬間でした。信孝さんはよく講演に招かれ八重子さんも連れて行かれました。アルツハイマーは決して回復することのない病で、患者にとにかく不安感を与えない介護が必要だと強く訴えておられました。

講演後のアンケートでは――

「介護に関わって来られた方の実際に介護された事を聞かせて頂いて、自分の介護にも活かしていこうと思います。ありがとうございました。本日は参加させて頂いて本当に良かったです。心が少し軽くなりました」などの感想をいただきました。



千代人権福祉センターは

12月3日(土)に

しんこうさい
心耕祭を開催します!

【内容】

- 人権講演会
- 青少年の意見発表

みなさん
ご来場をお待ちしています。

どす来い!



どす来い!

やめんさい 止めたあなたは すてきだよ(第21回心耕祭 最優秀標語)